



青森公立大学 国際芸術センター青森 プレスリリース

2018年 9月 6日

報道機関 各位

アーティストの滞在制作についての取材依頼



山下彩子《Pinus》2015年、スパイラルホール
撮影：金子愛帆

青森公立大学国際芸術センター青森（ACAC）は秋のアーティスト・イン・レジデンス事業を9月より実施いたします。同事業では、公募で選ばれた4人のアーティストがフランス、アメリカ、香港／イギリス、東京から集まり、ACACに滞在して新作を制作、発表します。それぞれのアーティストは青森の伝統工芸や日本の建築様式の調査、市民の方との協働制作による制作、また市内の学校への出張授業を予定しています。

アーティストは9月11日から滞在を開始し、10月27日の展覧会オープンに向けて制作を行います。滞在日程及び制作プランの詳細を以下に記しますので、制作過程についても報道機関の皆様にご取材いただけますようお願い申し上げます。

記

事業名	秋のアーティスト・イン・レジデンス 2018「 ^{まるとう} 〇動」
期間	制作期間：9月11日（火）—10月25日（木） 展覧会会期：10月27日（土）—12月9日（日）
参加アーティスト	盛圭太、山下彩子、クィン・ヴァントウ、ジョリーーン・モク ※詳細は次ページをご覧ください。

【取材お申込・お問合せ先】

青森公立大学国際芸術センター青森
学芸員 村上綾

TEL 017-764-5200 FAX 017-764-5201

E-mail murakami@acac-aomori.jp



参加アーティスト略歴・制作プラン

盛圭太（もり・けいた）

滞在期間：10月15日—12月14日

1981年北海道生まれ、パリ在住。パリ第Ⅷ大学大学院美術研究科先端芸術修了。糸をボンドで貼り付ける手法で線描画の作品を制作する。

ACACでは10月中旬からギャラリーの壁に直接糸を貼り絵を描く。10月27日からの展覧会会期中も公開制作としてギャラリーで制作を続ける。



山下彩子（やました・あやこ）

滞在期間：9月11日—12月10日

1984年、東京都生まれ、在住。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。人の内側で生まれる感情や生理などささやかな変化への観察をもとにダンス作品を制作する。

ACACでは一般公募で集まった市民と一緒に山や建物などの青森の景色を基にダンスを創作するワークショップを実施して調査を行い、作品を制作する。

作品制作のためのワークショップ日程：9月16、17、22、23日、10月20、21日
※ワークショップ詳細は別紙をご覧ください。



撮影：城 俊彦

クイン・ヴァントウ

滞在期間：9月15日—12月14日

1978年、アメリカ生まれ。ロンドン大学バートレット建築校博士課程在籍。建築物にある「敷居」が人の身振りや人と人との関係性に与える影響に興味を持ち、中に入って体験できるような構造を持つ作品を制作する。

ACACでは日本の茶室の調査を行い、それを基に作品を制作する。



ジョリーン・モク

滞在期間：9月12日—11月27日

1984年、香港／イギリス生まれ。デューク大学卒業。カメラを使うことで、世界の別な側面や新しい関わり方を見つけることを模索しながら制作を行う。

ACACでは、青森の風景を定点観測のように撮影した映像作品や、工芸作家や職人の仕事の様子取材した映像作品を制作予定。

